

とちぎ米産地だより 【6月号】

<24年産のとちぎ米に関する情報をいち早くお届けします！>

第3号 平成24年6月8日
発行責任者:JA全農とちぎ 米穀課

1. とちぎ米生長日記

- 県内の田植進捗状況について(5/28栃木県庁発表)
早植えでほぼ100%が完了し、前年並みの進捗状況です。
- 県内の水稻生育概況(5/25栃木県農業試験場発表)
草丈は平年並み、茎数は少なく、葉色は淡いといった状況です。



(5/26撮影 県北地区なすひかり)

● 今後は茎数確保のために、夜間灌水、日中止水により、水温及び地温の上昇を図ります。

2. 田植えツアーを開催しました。

5/12(土)に「親子泥んこ田植え体験バスツアー」と題して、首都圏の一般消費者の親子13組36名を招待しました。実施にあたり、JAうつのみやの皆様のご協力をいただき、さわやかな五月晴れの下、ツアー参加者に田植えと栃木県での1日を満喫いただきました。

今回は、これまでの栃木米指定取扱量販店での購入者を対象としたクローズドキャンペーンの一環ではなく、首都圏の一般消費者を対象とした、はじめての試みでした。狙いは、日頃栃木米を食べていない方に、“産地とちぎ”に興味をもっていただくこと、そして購入意識を高めることで新たな栃木米のファンを開拓することでした。したがって、ツアーの募集方法も、米の消費量が多く栃木米の取扱量販店が多く分布している地域のコミュニティ誌面を活用し募集しました。

内容は、①田植え体験

②栃木県産地産地消弁当の昼食

(栃木和牛、那須の白美人ねぎ、JAうつのみや産コシヒカリを使用した地産地消弁当、栃木県特産かんぴょうを使用した卵とじ汁等)

③栃木米キャンペーンの告知、栃木県産米の説明、取扱量販店の紹介

④農業クイズ(栃木県の農畜産物を題材とした題材としたクイズ)

※ 最後に井頭温泉で汗を流しました。

また、“田んぼ”の環境保全機能や生態系での必要性も説明しました。参加者からは、「貴重な体験が出来ただけでなく、農業の大変さ、農業の大切さを実感できた。」「これからは、栃木県産の農畜産物を意識して購入する。」といった感想も得られました。



3. 栃木県のイベント情報

● 水田アート「田植祭」 JAしおのや管内の玉田集落営農組合が主催する、水田アート「田植祭」が開催されます。

玉田の水田アートは今年で6年目を向かえます。例年、多くの地域住民、県内外の実需者、JA関係者が参加し、栃木県のオリジナル品種である「なすひかり」と、古代米等の田植を実施します。稲が育つにつれて、品種の違いによる稲のコントラストが浮き上がり、秋には見事な水田アートとなります。下記の日程で田植を実施しますが、田植祭に限らず、近くにおこしの際には是非お立ち寄りください。(写真は過去の実施状況を撮影したものです。)

と き:平成24年6月10日(日)

ところ:栃木県矢板市玉田「玉田地区水田アート園場」



田植風景



2008年 なすひかりの
キャラクター「とんぼ」



2011年
「ガンバレ日本」の文字



刈り取った稲は
「はさがけ」します。

4. 産地紹介 ～栃木県内のJAを紹介します！～



JALしおのや 夢咲く未来へ…地域と共に

JALしおのや管内は、行政的には塩谷地区として区分され、栃木県北東部に位置し、北北西から東南東に長い菱形で南北約43km、東西の最も広いところがほぼ30km、総面積543.97Km²と県土の約8.5%を占めています。

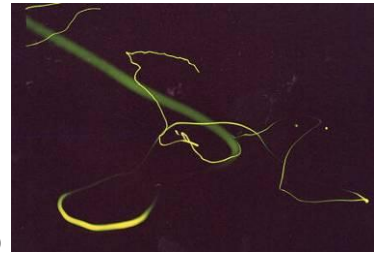
矢板市、塩谷町、さくら市、高根沢町の2市2町からなり、総人口は118千人余りで増加の傾向にあります。北部の矢板市・塩谷町は高原山系を境に鬼怒川・塩原・那須地区と接し、一部は日光国立公園に指定されています。また、東部のさくら市(旧喜連川町)はゆるやかな台地で南那須地区と接し、南部のさくら市(旧氏家町)・高根沢町は関東平野の北端に位置し、宇都宮・芳賀地区と接し、平坦な穀倉地帯の一角を形成しています。最も高い所は、塩谷町の釈迦ヶ岳で海拔1,794m、低い所は南部平坦地で海拔107mとなっています。

主な河川は、地域の西部から南部境界沿いに鬼怒川が流れ、また北部の塩原町を源とする箒川が地域の東沿いに流れているほか、内川、荒川、江川の3河川が管内を縦断しています。

地域の平均気温は、北部で12℃前後、南部で13℃前後であり、降水量は北部で約1,560mm、南部で約1,380mmと差がみられます。また雷雨の発生頻度が高く、高原山に発生するものが主に影響し、男体山に発生するものは南部地区に影響することがあります。

主要な交通機関としては、鉄道ではJR東北新幹線・東北本線・烏山線が走り、道路では東北自動車道、国道4号・293号・408号・461号および塩谷広域農道(グリーンライン)が整備され、産業・観光等の大きな交通拠点となっています。当地域は、北部の八方ヶ原、県民の森、尚仁沢湧水などの観光名所をはじめ、名所・旧跡が数多く点在しており、特に温泉は管内のいたるところに湧出しており、健康増進・保養などで内外の利用者にぎわっています。

(写真上段:スプレーマム(菊)、写真下段:ホタル)



JALしおのやの共乾施設と堆肥センター

●共乾施設

JALしおのやは、県内でも有数の米の産地であり、4箇所のカントリーエレベーターと4箇所のライスセンター(1箇所は種子センターと兼用)を保有しています。特にカントリーエレベーターでは籾のまま貯蔵し、出荷直前に籾摺りをするることによって、新鮮で上質な玄米の提供する中枢を担っています

また、当JAではなすひかりの作付け、種子の生産も盛んで、当JAを含む県北地区のなすひかりは、(財)日本穀物検定協会の行う、米の食味ランキングで、平成22年産、平成23年産と2年連続で『特A』を獲得しています。

●堆肥センター

JALしおのやの氏家地区では堆肥センターを保有しており、家畜糞尿を活用し、良質堆肥の製造を行っています。堆肥センターにて生産された堆肥を活用した土づくりが行われ、稲作を中心に農産物の付加価値を高めていく取組が行われています。

また、堆肥を利用することにより、化学肥料の使用を抑えたり、家畜糞尿を有効利用することで、「地域レベルでの”環境保全型農業”」を目指しています。

(写真上段:氏家カントリーエレベーター、写真下段:堆肥センター)



※ 問合せ先 ※

◆内容に関する、ご意見、ご質問、ご感想も、是非、お寄せください。

JA全農とちぎ 米穀課 電話:028-626-2174 FAX:028-621-2037